

### 3. 伏見地域

#### 1) 地域の課題

みたけの西部に位置し、中山道伏見宿を発祥としています。現在では、可茂地域の核となる可児市と隣接する西方の玄関として、都市間交通が集中する交通の要衝です。そのため、市街地の中心を通る現国道21号には通過交通が集中し、市街地が南北に分断されることで沿道の活用も停滞し、歩行環境も危険な状況となっています。

また、可児市などの都市部に近い立地条件から、幹線道路沿道には沿道型商業施設が立地し、農地や住宅との混在が発生しています。

既成市街地の東部は、比衣川・山田川沿いに優良な農地が分布しており、農業が盛んですが、生活道路などの整備は進んでいません。

#### 安全・安心な沿道環境の構築

現国道21号伏見交差点周辺は、御嵩駅・御嵩口駅周辺と並ぶ既成市街地ですが、比較的規模は小さく、密集した市街地周辺にも適度に空地が分布するなど、都市防災面からみた危険性は、緊急を要するものではありません。しかし、市街地の中心部は、大型車が一日中通過し、歩道の整備が遅れている状況にあり、危険な沿道環境となっています。この状況は、バイパスの開通により、大幅に軽減されることが予想されますが、計画的に沿道の安全性を確保していく必要があります。

- ・バイパスの早期整備
- ・現国道21号の歩道の早期整備
- ・危険な交差点の改良



現国道21号の渋滞の様子

#### 適正な土地利用の誘導

南部については、可児市に近い立地条件から沿道型商業施設の立地により、周辺の農地や住宅との混在が見られます。これらの立地は、用途地域指定地に囲まれた白地（用途地域未指定）において発生し、周辺土地利用との格差が生じています。この状況を解消するため、地域が一体となった市街地の形成を目指す必要があります。

- ・今後の用途地域の指定を視野に入れた土地利用誘導策の検討



現国道21号の渋滞の様子

### 良好な農地と生態系の保全

地域東部の比衣川・山田川沿いに多く立地する優良な農地は、自然環境保全や、田園風景の保存の面から重要な場所です。比衣川・山田川は、蛍が飛び交う美しい自然と風景を持ち、周辺の土地利用と密接に結びついている貴重な自然の財産です。この財産は、放置しておけば失われてしまうため、積極的に保全を図っていきます。

- ・土地利用の明確化
- ・都市と農地の連携による新たな開発の抑制
- ・町と住民の連携による河川環境の保全



優良な農地と河川の様子

## 2) 地域づくりのテーマ

テーマ

**人とひと、街とまちが出会い活力となる空間**

中山道の宿場町の歴史を持ち、交通の要衝として発展してきた地域です。現在は、現国道 21 号の通過交通により、沿道の利用が困難ですが、今後はバイパス整備により、通過交通の減少が予想されるため、住民が生活しやすい沿道環境を計画的に構築します。

キーワード

～活力・沿道・交通の要衝・生態系～

## 3) 地域づくりの方針

### 環境軸

#### 1. 水環境軸

可児市との境を流れる可児川は、住民の生活とのつながりが弱いものの、自然の風景を演出する要素として重要であり、みたけを東から西までつなぐシンボルであるため、水環境軸として位置づけます。

### 都市軸

#### 1. 地域生活軸

現国道 21 号は、都市を結ぶ地域の幹線の役割を担ってきましたが、良好な生活環境を阻害する要因でもありました。バイパスの整備により大型車の通過交通は減少することが予想されるため、地域住民が歩いていける商業空間、静かに暮らせる居住空間を構築する地域生活軸として位置づけます。

## 2. 地域連携軸

可児市・御嵩町・兼山町・八百津町を結ぶ(県)多治見八百津線および(県)御嵩犬山線は重要な道路であり、今後より一層の都市間連携を深めるための機能を担うことから地域連携軸として位置づけます。

## 3. 新交流圏形成軸

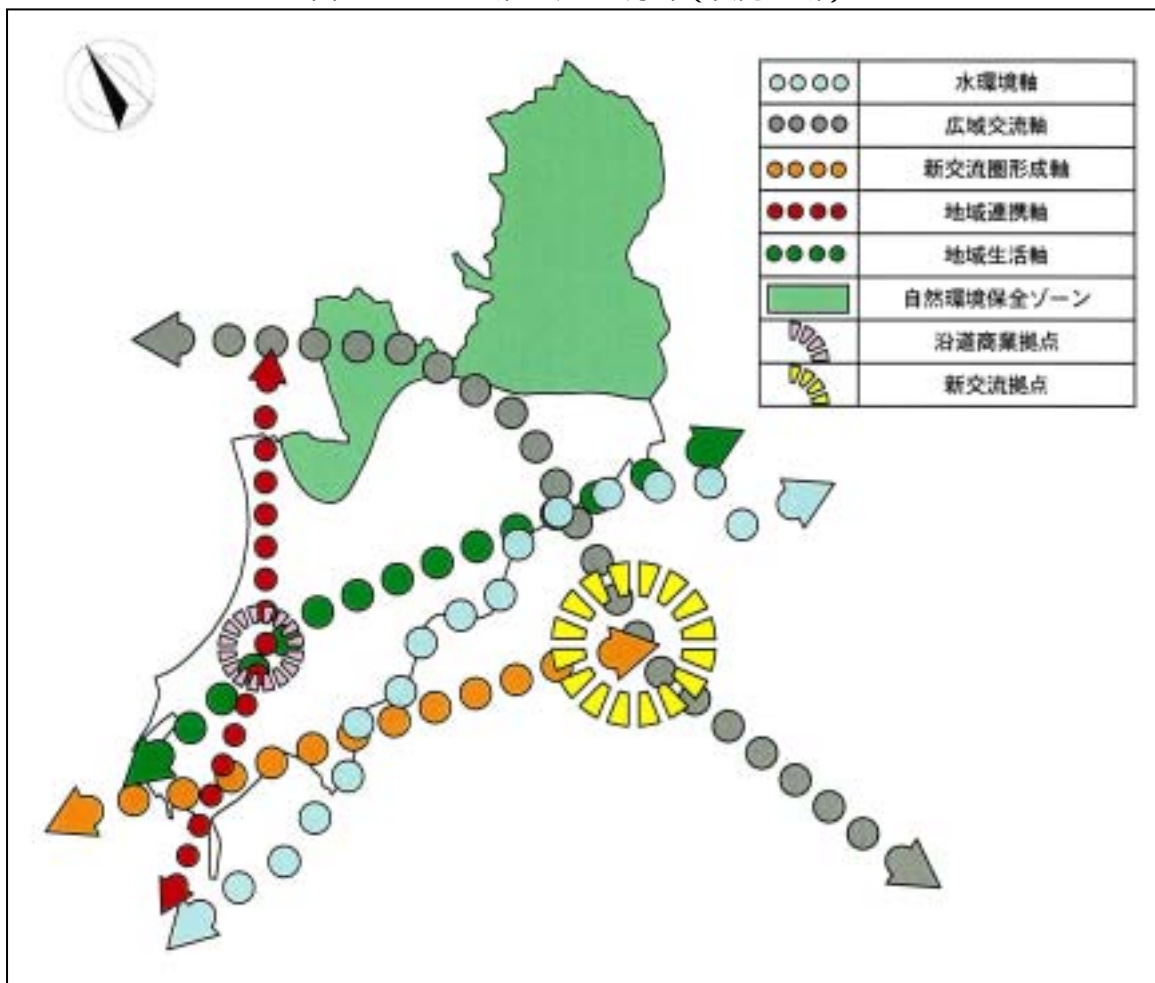
バイパスは、これからのみたけのまちづくりを考える上で重要な交流機能を担うことから、新交流圏形成軸として位置づけます。

### まちづくり拠点

#### 1. 沿道商業拠点

都市を結ぶ交通が行き交う要衝であり、円滑な交通機能に加え、沿道サービス機能を提供する沿道商業拠点として位置づけます。

図3-8 地域づくりの方針(伏見地域)



---

---

#### 4) 土地利用の方針

##### 商業・業務系

---

---

###### 1. 新交流商業地区

上恵土交差点を中心とした現国道 21 号とバイパス、(県)御嵩犬山線および(県)多治見八百津線沿道の商業集積は、交通の要衝としての地区の位置づけより、車利用を意識した現在の商業系土地利用を維持します。また、点在する商業系以外の土地利用は、地域の活性化のための重要な機能を担っているため、その土地利用を維持します。

- ・沿道型商業施設の集積は、周辺住宅地との混在などが生じないように、土地利用を誘導します。
- ・商業系以外の土地利用は、地域住民の生活の場として重要な役割を担っているため、周辺環境への影響に配慮した立地を維持します。
- ・(県)御嵩犬山線沿道の用途地域未指定地は、土地利用の動向を調査し、必要に応じて商業系用途地域の指定や、地区計画などの土地利用誘導施策を講じます。

###### 2. 沿道生活機能地区

現国道 21 号沿道は、地域住民のための商業施設が立地していますが、通過する大型車の交通により、利用が困難な空間となっています。今後は、バイパス整備による通過交通の減少が予想されるため、地域住民や通学者などのための、歩いて利用できる商業空間としての機能を担う地区を目指します。

- ・現状の用途地域指定の住居系を中心とし、周辺住民の生活に役立つ商業施設が集積する土地利用状況を維持します。

##### 住居系

###### 1. 一般住宅地区

伏見地域の既成市街地であり、静かな低層住宅地として良好な住環境を有しているため、今後とも住機能の維持に努めます。

- ・現在の用途地域指定を維持し、低層・低密な現状の良好な生活環境を守ります。

###### 2. 住宅団地地区

稻荷台団地や高倉台団地などの計画的に開発された住宅団地を住宅団地地区として位置づけ、現在の良好な低層住宅中心の居住環境の維持に努めます。

- ・現在の低層な住宅地としての用途地域指定を維持し、良好な生活環境を守ります。
- 
-

---

---

## 農業集落系（沿道集落地区）

### 1．集落

現国道21号沿道から北部にかけての一団の住宅の集積がみられる比衣・山田の集落地は、現在の低層・低密な農業集落としての住環境の維持を図ります。

- ・比衣の集落は、低層住宅を基本とし、沿道部分には地域住民のための商業施設や就業の場としての業務施設などの立地を維持します。
- ・山田の集落は、通過交通を排除した静かな低層住宅地としての住環境を維持します。
- ・これらの集落は、既存の用途地域から離れており、かつ急激な市街化や、日常生活に支障を来すほどの土地利用用途の混在の可能性が低いことから、用途地域の指定は、今後とも行いません。

### 2．農地

可児川・比衣川・山田川沿岸の農地は、農業機能のみではなく自然生態系上、保護・保全のための重要な機能を有することから極力維持し、地域資源としての農地を守ります。

- ・農業政策と連携した転用の抑制による農地の保全
- ・地元を中心とした地域資源としての農地および周辺自然環境の重要性の啓発

## 自然環境保全地区

地域北部の森林は、兼山町の生活環境保全林「蘭丸ふるさとの森」に連なるものであり、その景観的機能も保全に努めるとともに川・農地が一体となった生態系保全の観点から、森林の機能の維持を図ります。

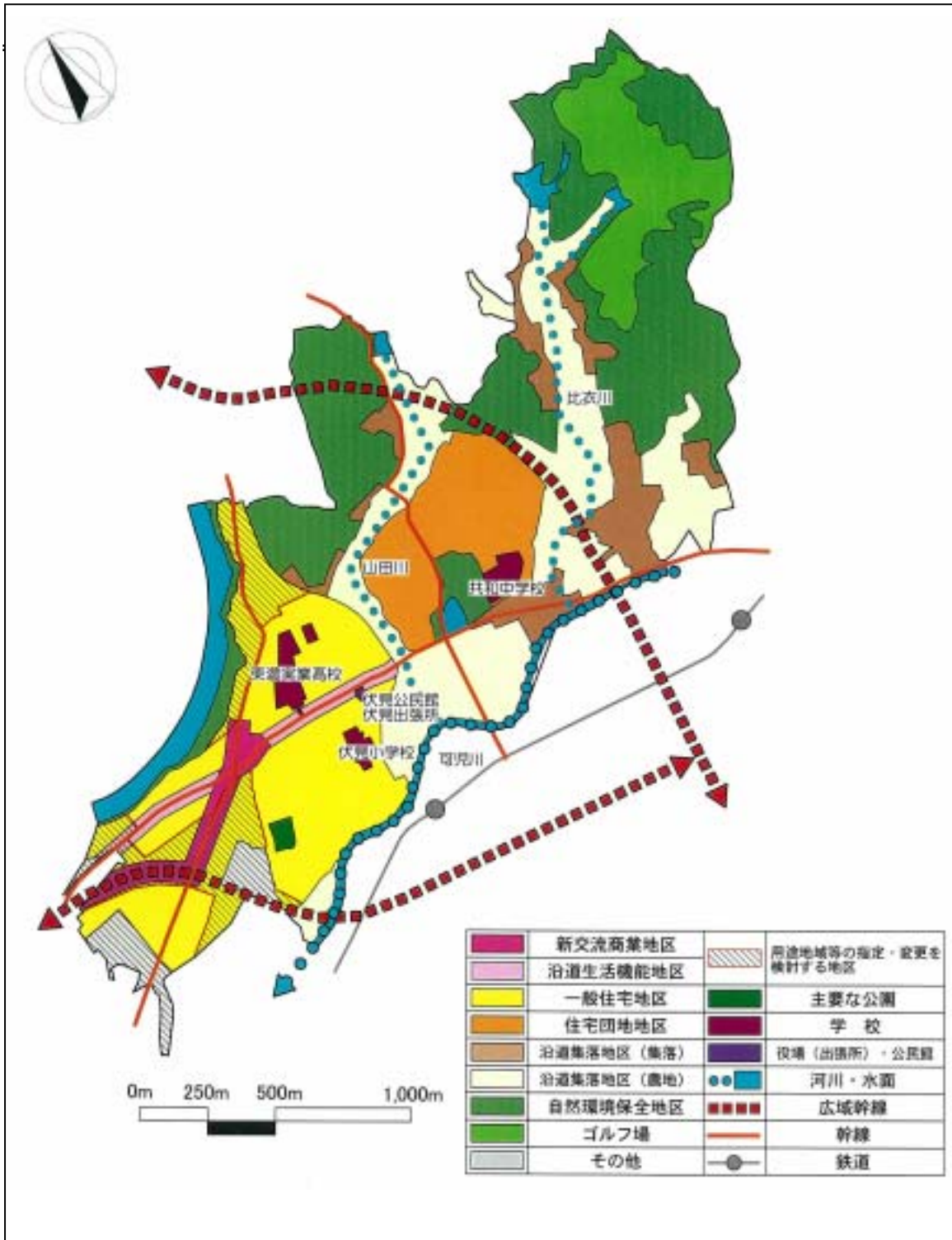
- ・林業施策と連携した森林の保全
- ・地元を中心とした地域資源としての森林および周辺自然環境の重要性の啓発

## ゴルフ場

現在、北東部に立地しているゴルフ場は、環境への影響が大きいこともあり機能の拡大は抑制します。

- ・新たな大規模開発を抑制します。
- ・現在営業中のゴルフ場については、環境に配慮した営業を求めるとともに、積極的な町民との交流を図るよう協力を求めています。

図3-9 土地利用の方針(伏見地域)



## 5) 環境にやさしいまちづくりの方針

### 里山環境の保全・維持

大規模な開発や、自然環境に多大な影響をおよぼす施設の整備は抑制するとともに、新たな開発に際しても、自然環境に最大限の敬意を払い、その存在を尊重した開発を行うよう地域で見守っていきます。

里山の維持は、住民を中心とした NPO やボランティアの活動、あるいは小中高校生の総合学習などの教育の一環としての活動を主体とし、町は、活動の組織化や定期開催、イベント開催などのための協力を行います。

### 河川の環境の改善

公共下水道の整備や合併処理浄化槽の設置など柔軟に対応し、地域の状況に応じた下水処理体制を構築することで河川の水質の浄化に努めます。

比衣川・山田川などは、良好な水質と貴重な生態系を維持するために、住民が中心となって清掃活動や川沿いの飾り付けなどを行い、子どもからお年寄りまで、すべての住民が川と関わりをもつ機会を創出していきます。

### 公共交通機関の活用

隣接する可見市の明智駅が、通勤・通学の最寄り駅となっています。大量輸送機関の鉄道は、環境への負荷を考慮すると非常に効率的であるため、今後も鉄道の維持とさらなる活用を目指す必要があります。このため、駅へのアクセス路を点検し、通勤・通学の安全性を確保します。また、コミュニティバス「ふれあいバス」の利便性の向上により、明智駅や各種公共施設へのアクセスの向上を目指します。

## 6) 災害に強いまちづくりの方針

### 亜炭廃坑への対応

亜炭廃坑は、地震発生時の動きに不明な点が多く、甚大な被害をもたらす危険性があります。そのため、避難路となる道路や、学校・公民館などの災害発生時の避難場所となる公共公益施設は、亜炭廃坑の調査を行い、適切な対策を施すことで、災害時の被害の抑制に努めます。また、安心して安全なまちづくりのため、今後とも町内の亜炭廃坑の調査を継続し、実態の把握と対策の充実に努めます。

### 自然災害への対応

他の地域に比べ、土砂災害の発生する可能性のある場所は少ないものの、これらの箇所については、住民と行政の綿密な情報交換により、災害による被害発生の未然防止に努めます。

### 避難所・避難路の適切な配置

伏見公民館などの避難所に指定されている施設の防災機能の維持・向上を図るとともに、避難路の整備および住民への周知を徹底し、災害時の迅速な避難体制を構築します。

## 7) 人にやさしいまちづくりの方針

### バリアフリー化の促進

地域に立地する公民館・児童館などの公共施設のバリアフリー化を積極的に進めるとともに、現在整備されている歩道の段差を解消し、歩行者・自転車にやさしい歩行環境の整備を進めます。

### 安全な歩行環境の創出

バイパス整備により交通量の減少が予測される現国道21号は、歩行者の安全性の確保を最優先し、歩道の設置を随時進めます。特に伏見交差点を中心とした東濃実業高校周辺は、現在の歩行環境を早期に改善し、安全な歩行環境の構築を目指します。

### 通過交通の減少による安全な沿道環境の創出

安全な生活環境が阻害されている現国道21号沿道は、バイパス整備により大型車の通過交通の減少が予想されるため、安全な沿道環境をもつ魅力的な市街地の構築を目指します。

### 福祉施設の維持・整備

お年寄りがもつ経験や知識は、地域にとって重要な財産です。この財産を受け継いでいくために、高齢者施設の整備に際しては、子どもが遊べる公園を併設するなど、世代交流や地域教育の効果を目的とした整備を進めます。

## 8) 良好な景観のまちづくりの方針

### 美しい里山景観の保全

北部には、兼山町へと連なる豊かなみどりがあります。しかし、豊かなみどりも維持・管理がされなければ輝きを失っていきます。この貴重な景観を守り続けるため、日頃から身近で暮らしている住民と行政の連携により里山景観の維持活動の活性化を目指します。



---

---

### 清々しい水辺景観の保全

地域には蛸が乱舞し夏の夜を彩る比衣川や、かつては美しい景観を誇った山田川があります。これらの水辺景観を維持・改善するため、地域住民と行政の連携による継続的な活動の活性化を目指します。

## 9) 都市施設整備の方針

### 交通施設

#### 1. 交通施設の配置の基本的な考え方

地域には町の骨格となる現国道 21 号が中心に配置されており、通過交通が多い状態です。地域南部のバイパスの完成により、既成市街地を分断し、沿道利用を困難にしている状況が改善されます。これらの新旧の骨格を結ぶ道路を整備することにより、地域の体系的な道路網を構築します。

#### ア. 広域幹線

広域交流軸として位置づけられている東海環状自動車道と新交流圏形成軸であるバイパスを広域幹線として配置します。これらの道路は、周辺市町・周辺地域だけではなく、より広域な交流のための機能として、整備を推進します。

#### イ. 幹線

まちづくりの軸として、町内や周辺市町を結ぶ道路を幹線として位置づけます。住民の生活の骨格として、まちの東西交通を円滑にする機能を担う現国道 21 号を配置します。これと広域幹線であるバイパスとの連絡、および可児市・御嵩町・兼山町・八百津町を連絡する南北の軸の機能として、(県)御嵩犬山線、(県)多治見八百津線を配置します。

#### ウ. 補助幹線

幹線の機能を補完する役割を担う道路を補助幹線として位置づけます。既成市街地内を南北に連絡する(都)新町吹上線、東西に連絡する町道東田 - 土居ノ内線を配置します。

また、現国道 21 号の機能を補完し山田・比衣の集落を結び、(県)多治見八百津線と連絡する町道柳澤 - 青木線などを配置します。

名鉄八百津線廃線跡地については、既成市街地周辺で線的に連続した貴重な空間であるため、道路としての活用を図ります。

2) 交通施設の配置計画

分類	名称	役割	整備方針
広域幹線	(都) 東海環状自動車道	・豊田市や関市などと連絡する広域交通機能	・整備の推進 ・周辺のアクセス道路の整備
	(都) 中濃大橋御嵩線 (バイパス)	・通過交通による沿道の危険性と慢性的な交通渋滞の解消 ・I.C.への連絡 ・新たな市街地の形成	・整備の推進 ・沿道の積極的な緑化 ・沿道の土地利用の検討
幹線	一般国道21号	・都市間を結ぶ通過交通の円滑な処理 ・沿道居住者が利用する生活空間	・一部歩道未整備区間での歩道整備の推進と横断時の安全性の確保。特に通学路として利用している区間の早期整備 ・学校周辺の見通しの確保と、横断者優先の安全施設の再配置 ・バイパス完成時の通過交通の移行誘導策の検討
	(県) 御嵩犬山線 (一部(都) 本郷新町線)	・八百津町 - 御嵩町 - 可児市の都市間連絡	・上恵土交差点部分の改良
	(県) 多治見八百津線 (一部(都) 高倉明智線)	・八百津町 - 御嵩町 - 可児市の都市間連絡	・現国道21号との交差点部分の改良
補助幹線	(都) 新町吹上線	・既成市街地を南北に連絡	・都市計画決定の変更による現道の有効利用
	町道 柳澤 - 青木線	・現国道21号の機能を補完する東西の連絡	・未整備部分の整備
	(仮) 町道 顔戸 - 可児線	・南北に分かれた顔戸の集落の連絡 ・可児市との連絡の強化	・可児川を渡る橋の新設 ・現道の有効利用 ・可児市との調整
	町道 笠田 - 杉ヶ洞線 (延伸)	・御嵩町と坊主山グラウンド、兼山町北端との連絡	・兼山町との連携による兼山町道路との取り付け部の整備
	三級町道 (山田・比衣)	・伏見地域の既成市街地と山田・比衣の集落の連絡	・狭隘部の拡幅 ・町道柳澤 - 青木線との取り付け部の改良 ・(県) 多治見八百津線との取り付け部の整備
	町道 東田 - 土居ノ内線	・既成市街地を東西に連絡	・狭隘部の拡幅
	町道 塚脇 - 西畑線	・伏見地域(上恵土)と可児市を連絡	・狭隘部の拡幅
(仮) 町道 兼山 - 伏見線	・伏見地域内の渋滞緩和 ・八百津町～伏見地域～明智駅のアクセスの向上	・名鉄八百津線廃線跡の有効活用 ・既存道路との取り付け部の適切な整備	

ここで示す三級町道は、町道のうち一級・二級以外のその他の町道を表します。

## 公園・緑地

### 1. 公園・緑地の配置の基本的な考え方

スポーツレクリエーション機能を有する伏見グラウンドを、機能の拡張により多目的利用が可能な施設として配置します。

子どもと遊べる身近なレクリエーション空間として、伏見児童館と連携した隣接地に(仮)伏見公園を配置します。また、高倉や上恵土などには、人口規模に応じた公園の配置を検討します。

### 2. 公園緑地の配置計画

分類		名称	役割	整備方針
多目的レクリエーション施設		伏見グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツレクリエーション機能</li> <li>・身近な公園機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏見グラウンドの拡張による多機能化を図ります。</li> </ul>
住区基幹公園		(仮)高倉公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺住民のための公園機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅団地周辺の空閑地に整備を行います。</li> </ul>
		(仮)伏見公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺住民のための公園機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伏見児童館の改築と連携した整備を行います。</li> </ul>
		(仮)上恵土公園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺住民のための公園機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺の集合住宅の増加に対応し、空閑地に整備を行います。</li> </ul>

## 上下水道

### 1. 上下水道の配置の基本的な考え方

#### ア. 上水道

この地域の既成市街地は高台に集積しており、その他は計画的な住宅団地と比較的まとまった集落であり、上水道の整備が完了していることから、今後は、機能の維持・管理を適切に行っていきます。

#### イ. 下水道

下水道は、伏見交差点周辺の既成市街地内や住宅団地は、対象家屋の密集度などから、公共下水道による処理が適しており、下水道整備計画にもとづいて整備を進めます。下水道整備計画区域外は、合併処理浄化槽の設置を進めることによって、効率的・経済的な汚水処理を行います。

## 2. 上下水道の配置計画

種別	整備地区	備考
公共下水道	用途地域内の市街地および集落のうち、公共下水道が効率的な地区	別途下水道整備計画に拠ります。
合併処理浄化槽	集落のうち、公共下水道では効率が悪い地区	別途事業計画に拠ります。
上水道	新たに整備する地区はない	維持・管理を中心に行います。

### 水環境施設

#### 1. 水環境施設の基本的な考え方

##### ア. 可児川

地域を東西に流れる可児川は、既に河川改修が完了していますが、水量の減少や水質の悪化など、可児川を取り巻く状況は悪化してきています。このため、山や水田がもつ保水能力の向上、合併処理浄化槽の普及やため池の活用、下水道施設の整備や、住民活動による河川の清掃などの多分野に渡る連携・協力を図ることで改善していきます。

##### イ. 比衣川・山田川

比衣・山田の集落周辺を流れ、可児川に合流する比衣川・山田川は、既に防災上必要な河川改修は完了しています。今後、この2河川は、住民と行政の連携による川の美しさを取り戻していく活動を推進します。行政は主体となって活動するのではなく、住民が活動しやすい組織の構築・運営に関する助言や助成に努めます。

##### ウ. その他の河川

その他の河川は、できる限り自然環境を残し、防災上必要と判断される以外の新たな改修は最小限にとどめます。河川の水質や景観の維持については、住民ボランティアの協力を得て、地域で守る美しい川を目指します。

##### エ. ため池

比衣川・山田川の水源として比衣ため池と山田ため池が整備されています。これらのため池は、地域のビオトープとして貴重な役割を担っているため、その機能の維持を図るとともに、安全性の確保を図ります。

## 2. 水環境施設の配置計画

名称	整備内容	備考
可児川	防災機能の維持	
比衣川・山田川	水田水源機能の維持 防災機能の維持	住民が河川環境回復のための活動がしやすいように協力を行います。
その他の河川	防災上必要な改修	自然環境や生態系に変化を与えないよう整備は最小限にとどめます。
ため池	ため池としての機能の維持 安全性の確保	

## 住宅

### 1. 町営住宅の基本的な考え方

地域内には、民間開発の高倉台団地の南側に高倉団地（74戸）が整備されています。このうち約7割が耐用年数を超過しており、現状のままでは将来的な利用が困難な状況にあります。町営住宅は、今後の少子高齢化・人口減少へ移行する社会情勢においては、居住水準の確保だけでなく、ある程度まとまった人数が居住することから、地域コミュニティの維持・形成の面でも重要な役割を果たすと考えられるため、計画的・効率的な建て替えを進めていきます。

建て替えに際しては、周辺の交通環境や住環境に配慮するとともに、公園などと一体的に整備を行うことにより、地域と密着した町営住宅を目指します。

### 2. 町営住宅の配置計画

名称	整備内容	備考
町営高倉団地	現在の利便性を維持するとともに、良好な住環境を備えた団地を目指します。	時期は未定ですが、計画性・効率性を考慮して、整備を行います。

## 衛生施設

### 1. 衛生施設の基本的な考え方

ごみ処理施設は地域内に立地していません。現在の可茂衛生施設利用組合による回収・処理体制の維持を図ります。

し尿処理施設は地域内に立地していません。現在の可茂衛生施設利用組合による処理体制を維持します（下水道などの整備は上下水道の項を参照してください）。

10) 市街地の新たな整備の方針

1. 市街地整備の基本的な考え方

この地域における住宅需要は、用途地域内での住宅立地に対応できるため、土地区画整理事業などの面的な整備による新たな市街地の形成は行いません。また、集落地内においても、低密な現在の住宅立地を維持し、緩やかな建物の建て替えを目指していくため、土地区画整理事業などの面的な整備は行いません。

図3-10 都市施設整備の方針(伏見地域)

